

第2四半期決算の概要 (平成29年4月1日～9月30日)

1 | 当社グループの業績の状況

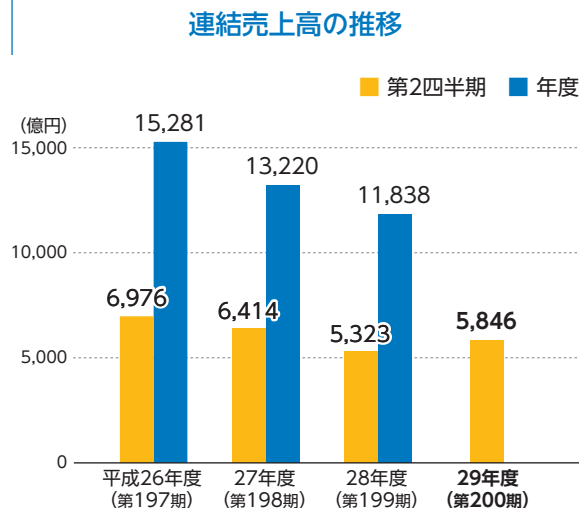
当第2四半期における連結売上高は、ガス事業で原料費調整制度に基づき都市ガスの販売単価が上昇したことや、電力事業で販売量が増加したことなどにより、前年同期比9.8%増の5,846億円となりました。(グラフ①)

連結経常利益は、ガス事業で原料価格の変動が都市ガスの販売単価に反映されるまでの時間差による影響^(※)等により、前年同期比27.3%減の364億円となりました。(グラフ②)

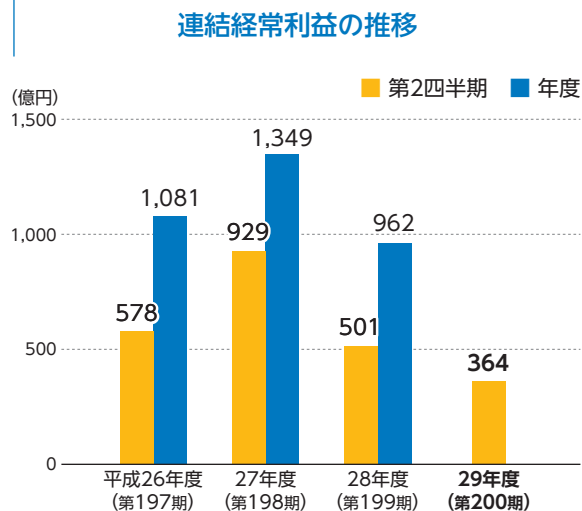
また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比28.6%減の238億円となりました。(グラフ③)

(※) 原料費の変動が原料費調整制度に基づく販売単価に反映されるまでには、一定の時間差があるため、一時的な増減益要因となります。当第2四半期においては一時的な減益要因となっております。

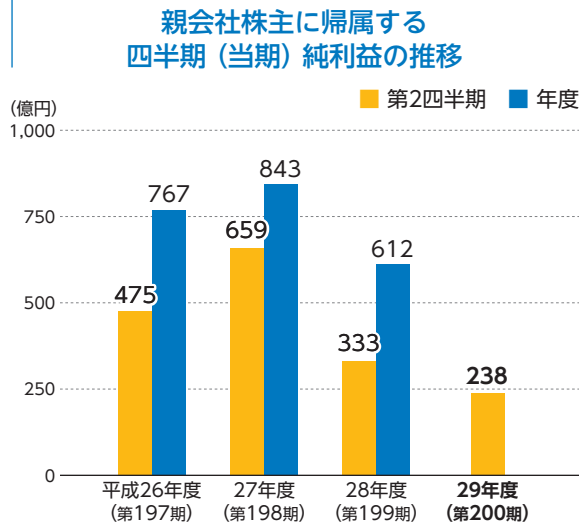
グラフ①



グラフ②



グラフ③



第2四半期決算の概要（平成29年4月1日～9月30日）

2 | 事業部門別（セグメント別）の状況

1 | 国内エネルギー・ガス

売上高は、前年同期比6.4%増の4,360億円となりました。

家庭用の都市ガス販売量は、気温・水温が前年に比べて低く推移し、給湯・暖房需要が増加したことなどにより、前年同期比2.5%増の7億7千万 m^3 となりました。

業務用等の都市ガス販売量は、工業用における一部の発電設備の自社電源化^(※)等により、前年同期比0.5%減の32億1千6百万 m^3 となりました。

これらの結果、都市ガス販売量は、ほぼ前年同期並みの39億8千6百万 m^3 となりました。

都市ガス供給件数は、本年9月末時点で610万1千件となっております。

(※) 発電燃料であるガスの取扱いを業務用ガス販売から自社利用に変更。

家庭用のガス機器・サービスにつきましては、給湯、暖房、調理等の機器・設備に加え、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」等の商品の開発および販売拡大に努めております。本年10月、スマートフォン用アプリを用いて、遠隔でのお湯はりや健康管理等の新たな機能やサービスを利用できる省エネ給湯器「エコジョーズ」の新商品を発売いたしました。加えて、ガス機器・水まわりの修理やメンテナンス等をワンストップでご提供する「住ミカタ・サービス」や防犯・防災サービス等の各種サービスの向上にも注力しております。

業務用のガス機器・サービスにつきましては、コージェネレーションシステム、冷暖房システム、厨房機器、ボイラ、工業炉、バーナ等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、エンジニアリング力を活用し、お客さまのニーズに応じた高付加価値のソリューションの提供に努めております。

本年4月、発電効率52%（総合効率90%）を実現した小形業務用燃料電池（固体酸化物形燃料電池）を発売し、小規模の飲食店や病院、福祉施設等の熱需要が比較的少ない施設向けに営業活動を展開しております。



コミュニケーションワードの発信



IoT対応「エコジョーズ」



小形業務用燃料電池

安定供給・保安の確保につきましては、天然ガスの調達先や契約価格指標の多様化、製造・供給設備の保全と計画的な改修、安全機能を備えたガス機器の普及促進等に継続的に取り組んでおります。

緊急時の備えとして、引き続き、引続き、受付出動体制を整えるとともに、地震対策・津波対策に取り組んでおります。また、本年9月、新規ガス小売事業者にもご参加いただき、ガス小売全面自由化後、初となる「全社総合防災訓練」を実施いたしました（8頁トピックス参照）。

なお、本年10月、神奈川県川崎市において都市ガスの製造や供給を行う扇島都市ガス供給株式会社に出資いたしました（出資比率15%）。当社は、同社に対し、熱量調整設備の建設および運営に関するノウハウを提供いたします。

LPG事業につきましては、本年10月、当社と伊藤忠エネクス株式会社とが各50%を出資する株式会社エネアークに液化石油ガスの卸売・小売事業を統合するとともに、今後のさらなる再編についての検討を開始しております（8頁トピックス参照）。



泉北製造所（大阪府）とLNG船



ガス管の修繕訓練

2 国内エネルギー・電力

売上高は、前年同期比45.0%増の708億円となりました。

低圧電気需給契約に基づく供給件数は、本年9月末時点で47万2千件となっております。

本年9月、中山名古屋共同発電株式会社が建設を進めていた名古屋第二発電所（発電容量11万kW）の営業運転を開始いたしました。同発電所は、ベースとなる石炭燃料に木質系バイオマス燃料を30%混焼することで、CO₂の排出量を抑制いたします。

なお、本年10月、千葉県市原市においてバイオマス発電所（発電容量約5万kW）を建設・保有する市原バイオマス発電株式会社に出資いたしました（出資比率39%）。同発電所は、平成32年10月の営業運転開始を予定しております。



名古屋第二発電所（愛知県）

第2四半期決算の概要 (平成29年4月1日～9月30日)

3 海外エネルギー

売上高は、前年同期比66.7%増の107億円となりました。

平成26年2月に参画決定した米国テキサス州におけるフリーポートLNGプロジェクトの液化事業につきましては、事業開始に向けて着実に準備を進めております。当社は、年間232万トンの液化加工委託契約を締結しており、シェールガスをはじめとする米国産天然ガスをLNGとして調達することを目指しております（平成30年出荷開始予定）。

本年5月、新日鉄住金エンジニアリング株式会社と共同出資するタイ国現地法人NS-OG Energy Solutions社は、タイ国東部アマタシティ工業団地内のYokohama Tire Manufacturing(Thailand)社工場に、エネルギー供給を開始いたしました。



フリーポートLNG基地（建設中）
(提供：Freeport LNG Development, L.P.)

4 ライフ&ビジネス ソリューション

売上高は、前年同期比0.4%減の955億円となりました。

都市開発事業を展開する大阪ガス都市開発株式会社は、賃貸マンション「アーバネックス深川住吉」（東京都）を取得し、京阪神地区に加え首都圏でも資産の拡充に努めております。また、本年8月に竣工した分譲マンション「ジ・アーバネックス京都四条烏丸テラス」は、竣工前に完売しております。

情報ソリューション事業を展開する株式会社オーグス総研は、本年10月、販売・購買、在庫管理等の基幹業務システム導入等のコンサルティングサービスを提供する株式会社アグニコンサルティングの全株式を取得いたしました。

材料ソリューション事業を展開する大阪ガスケミカル株式会社は、石炭化学技術等を基盤として、ファイン材料や炭素材製品等、付加価値の高い材料の開発および販売拡大に努めております。



ジ・アーバネックス
京都四条烏丸テラス（京都府）

事業部門別 売上高・セグメント利益

	国内エネルギー・ガス	国内エネルギー・電力	海外エネルギー	ライフ&ビジネスソリューション
売上高 (億円)	4,360	708	107	955
前年同期比 (%)	+6.4	+45.0	+66.7	△0.4
構成比 (%)	71.1	11.6	1.8	15.6
セグメント利益(億円)	134	94	18	78
前年同期比 (%)	△62.7	+12.2	- (*)	+13.3
構成比 (%)	41.3	29.1	5.6	24.0

(※) 前年同期は、16億円のセグメント損失を計上しております。

(注) 事業部門別の売上高・セグメント利益には、事業部門間の内部取引に係る金額を含んでおります。なお、セグメント利益には、持分法による投資損益を含んでおります。

主要な事業内容

事業部門	主要な事業内容
国内エネルギー・ガス	● ガス販売 ● ガス機器販売 ● ガス配管工事 ● 熱供給 ● LPG販売 ● LNG販売 ● 産業ガス販売
国内エネルギー・電力	● 電気供給
海外エネルギー	● 海外におけるエネルギー供給 ● LNG輸送タンカーの賃貸 ● 石油および天然ガスに関する開発・投資
ライフ&ビジネスソリューション	● 不動産の開発および賃貸 ● 情報処理サービス ● ファイン材料および炭素材製品の販売

本年3月に策定した長期経営ビジョン2030・中期経営計画2020「Going Forward Beyond Borders」において事業区分の見直しを行い、当期より、従来「LPG・電力・その他エネルギー」セグメントに区分していた電気供給事業等を独立させ、セグメント名称を「国内エネルギー・電力」とするとともに、LPG販売事業、LNG販売事業、産業ガス販売事業等を「ガス」セグメントに移管し、セグメント名称を「国内エネルギー・ガス」に変更いたしました。変更後の各セグメントの主要な事業内容は、上記のとおりです。なお、前年同期実績および前年同期比は、事業区分の変更を反映して算定した数値に基づき記載しております。